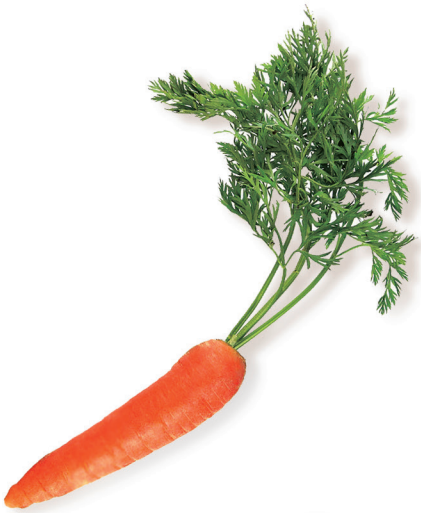
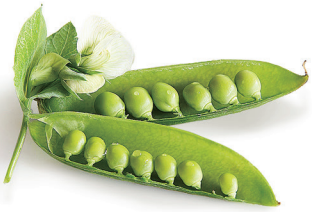


COMPANY PROFILE

会　社　案　内



日本農薬株式会社

Chemical Innovator for Crop & Life

未来の食と農業を支える力になりたい

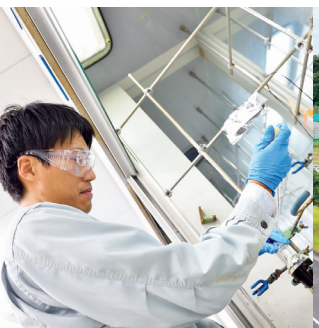
私たち日本農薬は、1928年に国内初の農薬専業メーカーとして創立され、「食と緑を守る」企業として、農薬の研究開発・普及を中核事業に位置づけて技術革新に努めてきました。

世界人口は今後急激に増加し、2050年には97億人に達すると予測されています。こうした人口増加や需要構造の変化により、世界の作物需給がひっ迫することが懸念されています。品質の揃った農作物の単位面積当たりの収穫量を上げ、農業生産性を向上させることは、作物の安定供給における喫緊の課題です。このような課題を解決する一助として、農薬はこれまで以上に大きな役割を果たすことが期待されています。

私たちは、作物の安定供給を目指した農業生産活動をお手伝いするという使命と役割を果たすため、国内外で効果、コスト、安全性に優れた農薬の創出と提供を続けていきます。また、グローバルな視点で成長戦略を進めることで創薬基盤と事業競争力の強化を図り、CSR活動にも積極的に取り組みながら、未来の食と農業に貢献していきます。

日本農薬グループの基本理念

- 安全で安定的な食の確保と、豊かな生活を守ることを使命として、社会に貢献します。
- 技術革新による新たな価値の創造にチャレンジし、市場のニーズに応えます。
- 公正で活力ある事業活動により全てのステークホルダーの信頼に応えます。



私たちの目指す姿

グループビジョン

Nichino Group — *Growing Global*

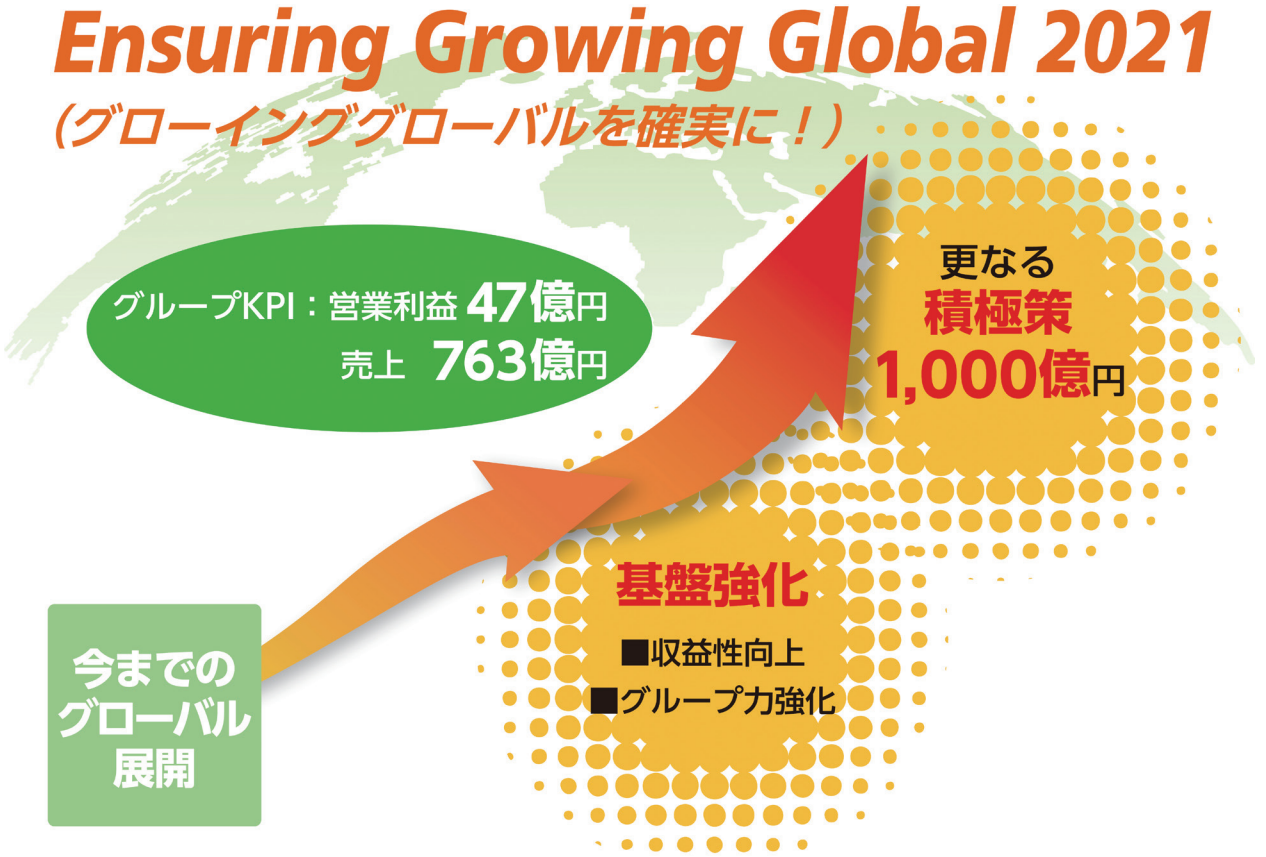
世界で戦える優良企業へ

作物保護や生活環境改善など、これまで農薬化学事業で培ってきた技術を更に高めることで、人類の未来に貢献する企業グループを目指す

新規農薬や技術の継続的提供による農業生産支援を通じて社会に貢献する

～ビジョン達成を目指して～　中期経営計画の基本方針

日本農薬グループは、「収益性向上」および「グループ力強化」を2本柱として、*Growing Global*を確固たるものにするための基盤強化を行います。2021年度には既存事業による売上高763億円達成に加え、更なる積極策の実現により売上高1,000億円を目指します。



※ 当社は2020年3月より事業年度を変更しました（10月1日～9月30日までを、4月1日～3月31日へ変更）。
これに伴い中期経営計画の最終年度が2021年9月期から2021年3月期へ変更となるため、計画数値を修正しました。

事業内容・主力製品

農薬の製造・販売をコア事業として、日本農薬グループは化学品、医薬・動物薬などにも事業領域を拡げ、安全で品質の高い製品を提供しています。

農薬

主な製品

日本初の農薬専業メーカーとして積み重ねてきた研究開発力と信頼を基盤に、国内だけでなく海外でも積極的に事業を展開しています。また、現場の環境やニーズに合わせ、地域に密着した農薬の使用技術の普及に努めています。

フジワン®粒剤
（有効成分：イソプロチオラン）

「フジワン」は、当社初の自社開発剤として1975年に誕生しました。もともとはいもち病防除の殺菌剤として開発されましたが、今では植物成長調整作用など多面的機能をもつ薬剤として、多くの場面で活用されています。

ブイゲット®箱粒剤
（有効成分：チアジニル）

イネのいもち病や細菌病に対して、イネが本来有する病害抵抗性を活性化して効果を示します。直接的な抗菌作用はないため耐性菌が発達するリスクは低く、既存剤に耐性を示すいもち病菌にも有効で、安定した効果が長期間持続します。

フェニックス®顆粒水和剤
（有効成分：フルベンジアミド）

昆虫の筋収縮症状を示す新規作用をもつ殺虫剤として、世界で初めて開発されました。優れた効果持続性を発揮するチョウ目害虫防除剤として、国内および海外で広く愛用されています。

コルト®顆粒水和剤
（有効成分：ピリフルキナゾン）

昆虫の行動を制御して作物を保護する新しいタイプの殺虫剤です。従来の殺虫剤にはない新規作用によって、有機リン剤、カーバメート剤などの既存の薬剤に対して感受性が低下した害虫にも有効で、高いウイルス媒介抑制効果を発揮します。

ダニコング®フロアブル
（有効成分：ピフルブミド）

新規作用性を有し、既存薬剤が効きにくくなったハダニ類に対しても高い防除効果を発揮します。ハダニの全生育ステージに効果を示し、安定した効果が長期間持続するとともに、天敵・有用昆虫に対する影響も少ない薬剤です。

パレード®20フロアブル（野菜用）
パレード®15フロアブル（果樹用）
（有効成分：ピラジフルミド）

野菜・果樹の幅広い病害に高い効果を発揮する新しい汎用性園芸殺菌剤です。優れた殺菌活性だけでなく、降雨の影響を受けにくく、効果持続性も優れています。

化学品

化学品では、家庭園芸、緑地管理、シロアリ防除向けなど幅広い製品を取り扱っています。

医薬・動物薬

農薬の殺菌剤の研究から生まれた水虫薬（外用抗真菌剤）を国内および海外で販売しています。

その他

造園緑化工事や農薬残留分析、不動産の賃貸なども行っています。

新たな価値を創造する研究開発力

私たちは豊かな食を支え、緑を守るため、グローバルな視野で時代のニーズに合った新しい農薬を開発し続けています。その原動力となる研究開発に、継続的に売上高の約1割を投資し、新しい農薬を「3年に1剤」創出することをミッションとしています。

総合研究所の役割

1995年、研究体制強化のため、独立していた化学、生物、安全性、医薬の各研究所を「総合研究所」へと統合しました。研究者は各々の研究分野を超えて連携し、戦略的な新規薬剤の創製や新製品の開発に取り組んでいます。

発明　化学研究分野

探索研究では、新規な化学構造・生理作用を有する化合物合成について計算科学などの新しい研究手法も導入して幅広く展開しています。また、原体コストの低減を目的としたプロセス化学研究にも注力しています。

- 新規化合物の合成
- 製造法の確立・改善
- コスト低減の追求

連携

発見　生物研究分野

グローバルな市場情報・変化を反映した柔軟なターゲティングと様々な生理活性を検出する独自評価系により、ユニークな新規化合物の発見を目指しています。また、混合剤や新規用途開発を通じて既存剤の最大・最長化にも取り組んでいます。

- 生理活性の評価
- 作用機構の解明
- 周辺事業分野への拡大

連携

保証　安全性研究分野

新しい農薬の人・動物への安全性はもちろん、環境への影響を含めて多角的な視点でグローバルな登録性の確保を追求しています。また、早期のリスク評価のための新規評価系の構築を進め、探索期間の短縮にも取り組んでいます。

- 毒性評価
- 環境安全性のリスク評価
- リスク予知技術の開発

製剤研究分野／知財、登録分野
製品開発分野／研究管理分野

連携

私たちの責任

品質の高い製品をお届けする

食の安全と環境保全に対する関心が一層の高まりをみせる中、農薬を扱う企業として、私たちは「生産」、「品質管理」、「物流」などサプライチェーン全体の最適な管理に努め、安全に使用できる製品をお客さまにお届けしています。

生産

多様なニーズに対応可能な技術と設備を備えた2つの製剤工場と1つの原体工場を生産拠点の中心とし、国内外に製品を提供しています。

品質管理

品質管理部会を中心に詳細な検討を行うなど、万全の品質管理体制で製品の品質の維持・向上に努めています。

物流

全国をネットワーク化する最新の物流システムと安全・確実・迅速な配送体制により確かな品質の製品をお届けしています。

お客さま

各種認証を取得

製造および物流業務を担う(株)ニチノーサービスは、「ISO9001」、「ISO14001」および「OHSAS18001」の認証を取得し、優れた品質管理のもと、環境保全と労働安全衛生に配慮した事業活動を積極的に進めています。

原料・製品の安全管理

農薬をはじめとする化学品を安全に取り扱い、労働災害や事故を未然に防ぐことを目的に、リスクアセスメントに必要となる約700件の安全データシート(SDS)を作成し社内外に提供しています。

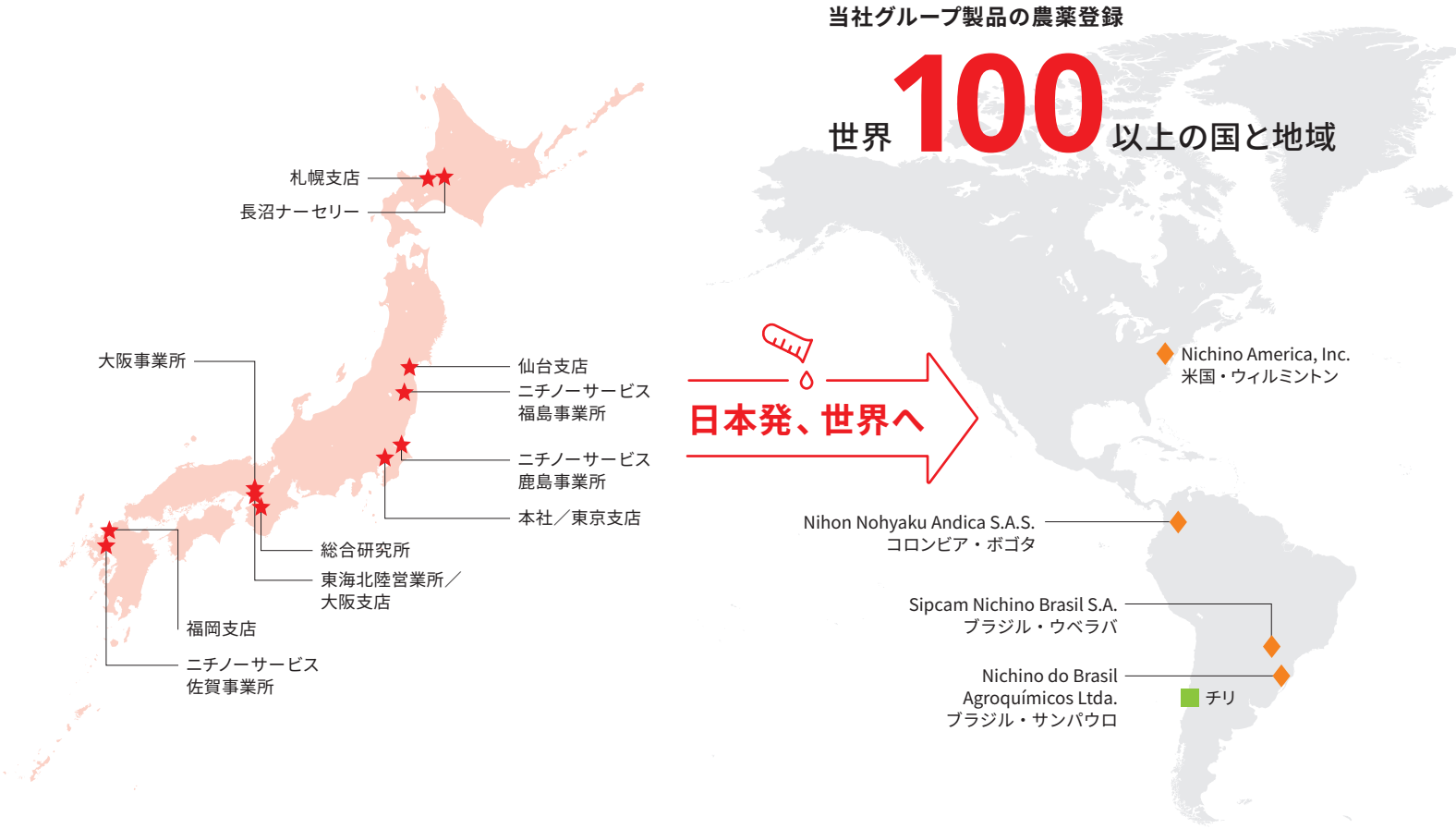
レスポンシブル・ケア活動の推進

当社はレスポンシブル・ケア世界憲章に署名し、一般社団法人日本化学工業協会のレスポンシブル・ケア委員会に加入して、安全性に優れた製品の創出と環境負荷の低減および健康の確保に配慮した事業活動に努めています。

世界に広がるネットワーク

私たちは、アジア・米州・欧州の三極体制で海外拠点の拡充を図り、現在では100以上の国と地域で当社製品の農薬登録を取得し、積極的に開発・普及活動を展開しています。

★ 国内拠点
◆ 海外グループ会社
● 海外出資会社
■ サテライトオフィス



沿革

1928 創立

1930
河内病虫害研究農場開設
1934
佃工場（現大阪事業所）竣工
九州出張所（現福岡支店）開設

1956
化学研究所竣工
1959
本社を東京に移転

1969
● マレーシアにAgricultural Chemicals (Malaysia) Sdn. Bhd.設立

1974
（株）ニチノー緑化設立
1975
殺菌剤フジワン発売

1984
殺虫剤アプロード発売
1985
殺菌剤モンカット発売
カンテック（医薬）発売
1989
ジャパンハウステック（株）
（現（株）ニチノーサービス）設立

1990
日本エコテック（株）設立
1991
殺ダニ剤ダニトロン発売
1992
ロンドン事務所開設
1994
アスタット（医薬）を医療用に発売

海外売上高比率（連結）

56.1%

積極的に海外展開を進め、売上を拡大

売上高研究開発費比率（単体）

11.8%

業界内でも高い比率を維持し、研究開発力を強化

従業員数（連結）

1,472名

国内655名、海外817名の従業員が世界で活躍

女性管理職比率（単体）

7.1%

10%以上を目標に推進

（2019年9月現在）

1995
総合研究所完成
ニューヨーク事務所開設

1996
◆台湾に日佳農葯股份有限公司設立

1999
除草剤エコパート、サンダーボルト発売

2001
◆米国にNichino America, Inc.設立

2002
（株）トモノアグリカより営業権の一部を譲受
三菱化学（株）より農薬事業を譲受
殺虫剤ハチハチ、ピラニカ承継
殺菌剤Zボルドー承継
除草剤インダノファン承継

2003
殺菌剤ブイゲット発売

2005
上海事務所開設
ルリコン（医薬）を医療用に発売

2007
◆英国にNichino Europe Co., Ltd.設立
殺虫剤フェニックス発売
プラク-ティック（動物薬）、プロメリス（動物薬）発売

2010
殺虫剤アクセル、コルト発売

2011
◆日農（上海）商貿有限公司設立

2014
アリスタライフサイエンスアグリマート（株）
（現（株）アグリマート）を完全子会社化
ブラジルのSipcam Agro S.A.に出資
（社名をSipcam Nichino Brasil S.A.へと変更）
◆Nichino do Brasil Agroquímicos Ltda.設立

2015
◆Hyderabad Chemical Ltd.
（現Nichino India Pvt. Ltd.）を子会社化
殺ダニ剤ダニコング、ダブルフェース発売

2016
◆Sipcam Nichino Brasil S.A.を連結子会社化
ネクサス（シロアリ防除剤）発売

2017
◆Nichino Vietnam Co., Ltd.設立

2018
◆コロンビアのAdnicol S.A.S.の株式を取得
（社名をNihon Nohyaku Andica S.A.S.へと変更）
殺菌剤パレード発売
（株）ADEKAと資本業務提携

会社情報 (2019年12月現在)

商号	日本農薬株式会社
本社所在地	〒104-8386 東京都中央区京橋1-19-8 (京橋O Mビル) TEL：03-6361-1400
創立	1928年(昭和3年) 11月17日
資本金	14,939百万円
主要事業内容	農薬、医薬品、動物用医薬品、工業薬品、木材用薬品、農業資材などの製造業、輸出入業、販売業

役員

代表取締役社長	友井洋介
代表取締役兼専務執行役員	宍戸康司
取締役兼常務執行役員	富田啓文
取締役兼上席執行役員	矢野博久 東野純明 山野井博 山本秀夫 岩田浩幸
取締役	郡昭夫
取締役(社外)	松井泰則 戸井川岩夫
常勤監査役	古瀬純隆
監査役	冨安治彦
監査役(社外)	中田ちず子 大島良子

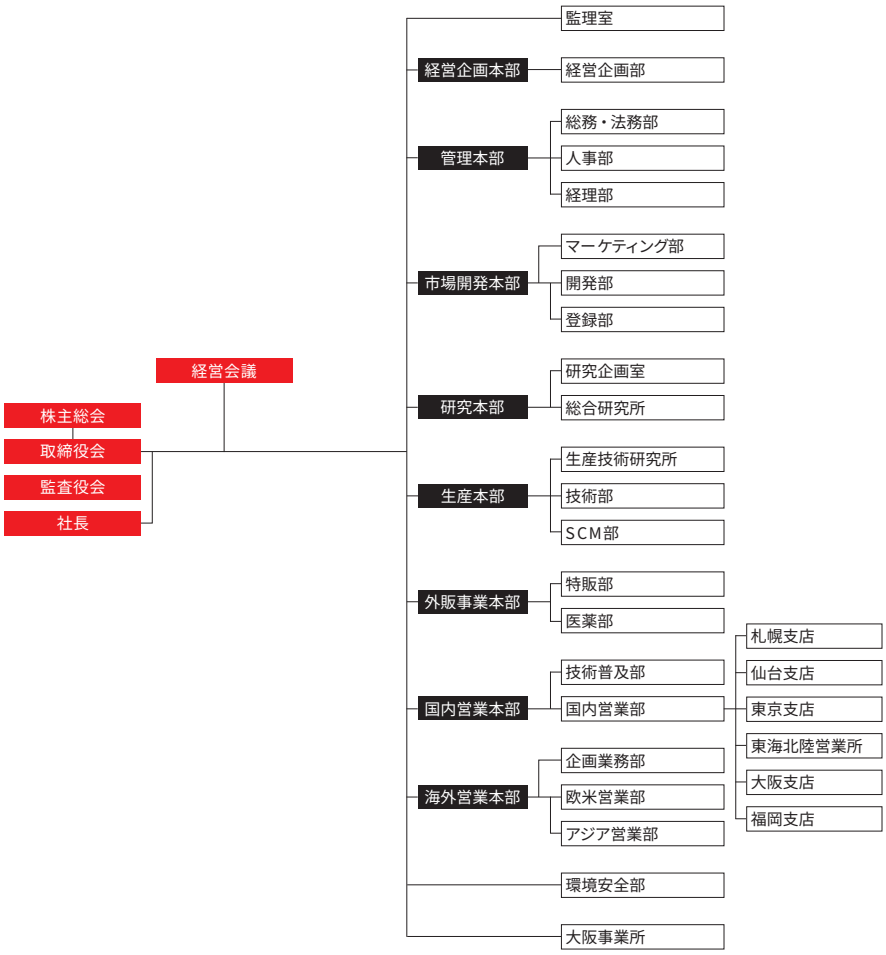
上席執行役員

Jeffrey R. Johnson	町谷幸三
福富学夫	井ノ下順二郎

執行役員

髙橋史郎	元場一彦
西松哲義	桂田学

組織図



事業所

本社
札幌支店
仙台支店
東京支店
東海北陸営業所／大阪支店
福岡支店
総合研究所
長沼ナーセリー
大阪事業所

主なグループ会社

国内

株式会社ニチノー緑化
株式会社ニチノーサービス
日本エコテック株式会社
株式会社アグリマート

海外

Nichino America, Inc.
Nichino Europe Co., Ltd.
日佳農葯股份有限公司
日農(上海)商貿有限公司
Nichino do Brasil Agroquímicos Ltda.
Nichino India Pvt. Ltd.
Sipcam Nichino Brasil S.A.
Nichino Vietnam Co., Ltd.
Nihon Nohyaku Andica S.A.S.

所在地および連絡先は Web サイトをご覧ください。

https://www.nichino.co.jp/corporate/page_10066.html

https://www.nichino.co.jp/corporate/page_10067.html

ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C014687
VEGETABLE OIL INK

Printed in Japan